



# 分析結果報告書

東海技水第 08103634-006 号  
平成 20 年 9 月 12 日

愛知県住宅供給公社 様

計量証明事業 愛知県知事登録 第262号  
財団法人 東海技術センター  
理事長 清水 定彦  
名古屋市名東区猪子石二丁目7-10番地  
TEL(052)771-5161(代) 〒465-0021

出張採取 (平成 20 年 7 月 24 日受入)	
試料の種類	吹付け材
採取場所	東高森台住宅 306棟 408号室 天井
採取日時	平成 18年 7月 10日 9時 50分 天候
採取者名	小嶋、近澤

上記試料に対する分析結果をつぎのとおり報告します。

分析対象	単位	分析結果	備考
1 石綿定性 (以下余白)	—	別紙参照	

[備考]



## 石綿(トレモライト、アクチノライト、アンソフィライト)分析結果

### 【試料】

吹付け材 (東高森台住宅 306棟 408号室 天井)

### 【測定方法】

「建材製品中のアスベスト含有率測定方法」(JIS A 1481:2006) 解説に準拠した方法  
(分析対象アスベスト種: トレモライト、アクチノライト、アンソフィライト)

### 【測定方法の詳細】

1. 試料を粉砕又は加熱処理した後に、一次分析試料を作製する。
2. 次に、一次分析試料にアスベストが認められるかどうかを顕微鏡定性分析及びX線回折定性分析により確認する。

#### (1)顕微鏡定性分析

一次分析試料を水中で攪拌分散させたものをスライドガラス上に滴下、乾燥した後、スライドガラス上に屈折率の異なる2つの浸液を滴下し、位相差顕微鏡にて分散色を示す繊維の有無を確認する。

#### (2)X線回折定性分析

一次分析試料をホルダーに充填し、X線回折装置にて測定する。得られたX線回折パターンからアスベストの回折線ピークの有無を確認する。

※参考として、参考資料1にアスベスト含有率測定方法のフローを、参考資料2にアスベスト標準試料の分散色を示す。


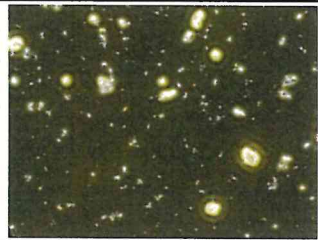
### 【測定結果】

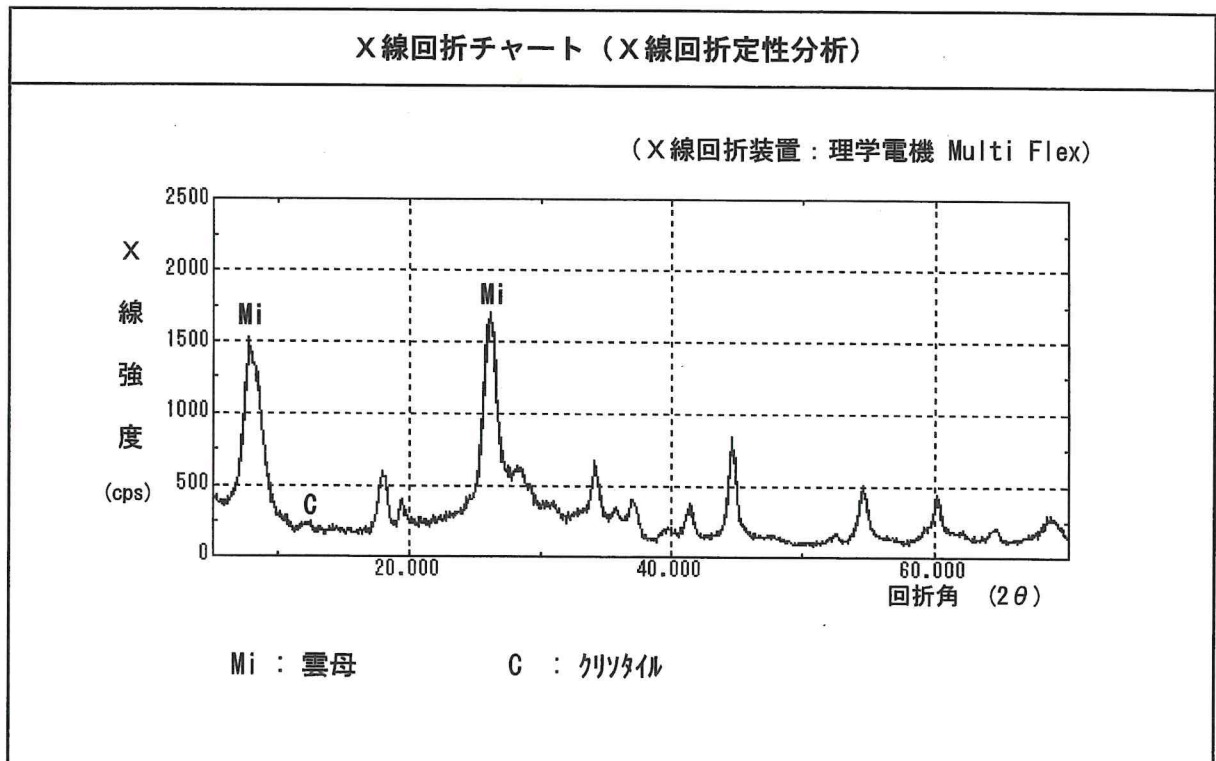
アスベスト含有の有無	アスベストの種類
アスベスト含有せず	—

## 【定性分析結果の詳細】

(1) 顕微鏡定性分析	
分析結果	アスベストの種類
4 繊維状粒子未満であった。	—————
1. 使用した浸液の屈折率 ( $n_D^{25^\circ C}$ ) 1.605、1.640 2. 粒子の計数方法は、分散色を示したアスペクト比3以上のものをアスベストとし、存在するすべての繊維状粒子を含めて合計粒子数が3000粒子になるまで計数する。 3. 位相差顕微鏡：ニコン エクリプス 80iTP-DPH 型(分散対物レンズ 10 倍、40 倍付)	
(2) X線回折定性分析	
分析結果	アスベストの種類
アスベストの回折ピークは認められなかった。	—————
(3) 顕微鏡定性分析 (再確認) [ (1)で「-」かつ(2)で「+」の場合に実施 ]	
分析結果	アスベストの種類
実施せず	—————

添 付 資 料

顕微鏡写真（顕微鏡定性分析）		
		<p>&lt;アスベストの分散色&gt;</p> <p>屈折率 (<math>n_D^{25^\circ\text{C}}</math>) 1.605 の浸液による分散色                      トレモライト : 橙色                      アンソフィライト : 橙色</p> <p>屈折率 (<math>n_D^{25^\circ\text{C}}</math>) 1.640 の浸液による分散色                      トレモライト : 青色                      アンソフィライト : 青色</p>
浸液の屈折率 $n_D^{25^\circ\text{C}}$ : 1.605	浸液の屈折率 $n_D^{25^\circ\text{C}}$ : 1.640	
<p>※分散色は、判定時の色と写真の色が異なる場合がある。</p> <p>※各写真下に示す各繊維の分散色は、対応する浸液によって呈するものであって、各繊維の判定は基本的に2つの浸液を用いて総合的に行う。</p>		





# 分析結果報告書

東海技水第 08103634-007 号

平成 20 年 9 月 12 日

愛知県住宅供給公社

様

計量証明事業 愛知県知事登録 第262号  
財団法人 東海技術センター  
理事長 清水 定彦  
名古屋市名東区猪子石二丁目710番地  
TEL (052) 771-5161(代) 〒465-0021

出張採取 (平成 20 年 7 月 24 日受入)			
試料の種類	吹付け材		
採取場所	東高森台住宅 307棟 307号室 天井		
採取日時	平成 18年 7月 11日	9時 30分	天候
採取者名	植原、工藤		

上記試料に対する分析結果をつぎのとおり報告します。

	分析対象	単位	分析結果	備考
1	石綿定性 (以下余白)	—	別紙参照	

[備考]



石綿(トレモライト、アクチノライト、アンソフィライト)分析結果

【試料】

吹付け材 (東高森台住宅 307棟 307号室 天井)

【測定方法】

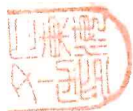
「建材製品中のアスベスト含有率測定方法」(JIS A 1481:2006) 解説に準拠した方法  
(分析対象アスベスト種: トレモライト、アクチノライト、アンソフィライト)

【測定方法の詳細】

1. 試料を粉砕又は加熱処理した後に、一次分析試料を作製する。
  2. 次に、一次分析試料にアスベストが認められるかどうかを顕微鏡定性分析及びX線回折定性分析により確認する。
    - (1)顕微鏡定性分析  
一次分析試料を水中で攪拌分散させたものをスライドガラス上に滴下、乾燥した後、スライドガラス上に屈折率の異なる2つの浸液を滴下し、位相差顕微鏡にて分散色を示す繊維の有無を確認する。
    - (2)X線回折定性分析  
一次分析試料をホルダーに充填し、X線回折装置にて測定する。得られたX線回折パターンからアスベストの回折線ピークの有無を確認する。
- ※参考として、参考資料1にアスベスト含有率測定方法のフローを、参考資料2にアスベスト標準試料の分散色を示す。

【測定結果】

アスベスト含有の有無	アスベストの種類
アスベスト含有せず	—

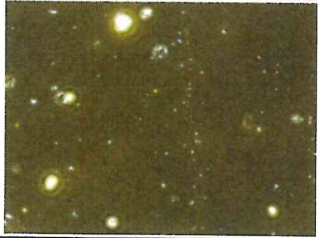



## 【定性分析結果の詳細】

(1) 顕微鏡定性分析	
分析結果	アスベストの種類
4 繊維状粒子未満であった。	—————
1. 使用した浸液の屈折率 ( $n_D^{25^\circ C}$ ) 1.605、1.640 2. 粒子の計数方法は、分散色を示したアスペクト比 3 以上のものをアスベストとし、存在するすべての繊維状粒子を含めて合計粒子数が 3000 粒子になるまで計数する。 3. 位相差顕微鏡：ニコン エクリプス 80iTP-DPH 型 (分散対物レンズ 10 倍、40 倍付)	
(2) X線回折定性分析	
分析結果	アスベストの種類
アスベストの回折ピークが認められた。	※
(3) 顕微鏡定性分析 (再確認) [ (1) で「-」かつ(2)で「+」の場合に実施 ]	
分析結果	アスベストの種類
4 繊維状粒子未満であった。	—————

※ X線の回折ピークから同定できず。

添 付 資 料

顕微鏡写真（顕微鏡定性分析）		
		<p>&lt;アスベストの分散色&gt;</p> <p>屈折率 (<math>n_D^{25^\circ}</math>) 1.605 の浸液による分散色</p> <p>トレモライト : 橙色</p> <p>アンソフィライト : 橙色</p> <p>屈折率 (<math>n_D^{25^\circ}</math>) 1.640 の浸液による分散色</p> <p>トレモライト : 青色</p> <p>アンソフィライト : 青色</p>
浸液の屈折率 $n_D^{25^\circ}$ : 1.605	浸液の屈折率 $n_D^{25^\circ}$ : 1.640	
<p>※分散色は、判定時の色と写真の色が異なる場合がある。</p> <p>※各写真下に示す各繊維の分散色は、対応する浸液によって呈するものであって、各繊維の判定は基本的に2つの浸液を用いて総合的に行う。</p>		

